

新体操の原点

子どもたちに夢と愛を

白石の新体操の礎を築いた

日下イサヲさんと柴田佐和子さん

力の源は愛と情熱！



1_平成15年8月、市政施行50周年記念事業「全日本学生新体操選手権大会」エキシビジョンで「楽しい体操」を披露した子どもと母親たち

2_平成12年11月、「全日本新体操選手権大会」エキシビジョンで「蔵王の四季」を披露した子どもと母親たち

白石の新体操の原点を語る上で欠かせないのが、日下イサヲさんの存在だ。平成7年の白石市体操協会設立、平成9年のキューブ新体操教室設立に尽力し、「白石の新体操の母」と言っても過言ではない日下さん。そして、日下さんが礎を築いた想いを受け継ぐ柴田佐和子監督に、体操人生とともに、新体操への想いを聞いた。

旧白女高に赴任し体操部を設立！ 体操三昧の日々

昭和29年4月、旧白石女子高等学校に赴任した日下イサヲさんは、教鞭を執る傍ら生徒たちの希望で体操部を設立し、器械体操の顧問として5人の部員で活動を開始した。初めの2年間は規定の用具がなく、勝敗にとらわれずに参加することの喜びを感じていた楽しい2年間だったが、3年目からは新入部員が15人入部。活気が増したことで練習に熱が入り、毎日が体操に明け暮れる無我夢中の日々で、昭和50年からは器械体操と新体操を一人で指導。生徒たちを全国大会に出場させたいと目標を定め、昭和52年に器械体操でインターハイに出場し、生徒たちと最高の喜びを分かちあったがこの年、器械体操を続けることの難しさを痛感し器械体操を終えることにした。

新体操での新たな歩み

それ以降、新体操一本に全力を注いだ日下さん。目標を高く掲げ、毎日の練習はとても厳しかったという。それでも生徒たちが付いてきてくれた結果、インターハイ出場を果たすことができた振り返る。「初めての

出場は昭和53年の福島大会。個人でも昭和55年・56年に2年連続でインターハイ出場を果たしました」と話す日下さん。旧白女高を平成7年に退職するまで新体操部の顧問として生徒たちの指導に当たった。

新体操を知ってほしい
新体操のまち白石にしたい

日下さんは平成7年、平成14年開催の「みやぎ国体」に向け白石市体操協会が設立され副会長となる。「どうしたら新体操の魅力を知ってもらえるかと手作りのチラシを作ったり、声掛けしたりしました。スポーツセンターでは体験教室を年に数回開催。教室を始めたのは、新体操をPRするため。そして大きな夢は『新体操のまち白石』にしたいという活動を始めました」と日下さんは話す。翌年、ホワイトキューブが開館してからは本格的に選手を育成するため、「キューブ新体操教室」を設立。キューブ職員が監督となったが新体操の経験がなく、日下さんが旧白女高の教え子とともに女子を指導、男子はこの年に東中学校に赴任した野呂和希先生が指導に当たった。



からも周りの方々に支えられながら、常に学ぶ心を失わないで新体操と関わっていきたいです。子どもたちの喜びの表情を見ることができました。今後とも地域で子どもたちの成長を温かく見守っていただきたいと思います」と振り返った。

そして、平成12年11月に全日本新体操選手権大会が、平成14年10月には「みやぎ国体」新体操競技がホワイトキューブで行われ、両大会のアトラクションで、日下さんの教え子たちが親と一緒に「蔵王の四季」をイメージした集団演技を披露。「親も子どもと一緒に踊る演技に加えて、布を縫い合わせる作業などを行い、親子の絆が深まりました」と日下さんは当時を振り返った。

約60年の体操生活！ 多くの人に支えられ生きてきた

平成14年、キューブに新体操経験者の柴田佐和子さんが採用され、男女の監督となった

人に助けられ、支えられて生きてきた
すべては子どもたちの喜びの表情を見たくて――

てからも、引き続き指導に当たってきた日下さん。「生徒たちにはあいさつから指導し、1つでも良い演技をした時は、『良かったよ』とほめました。でも、叱る時は本気。大会で成績が残せる年もあれば、残せない年もあり苦しくて楽しかった日々。思えば新体操は私の生活の一部でした。柴田監督は、男女の監督を一人で務めているので楽しいことばかりではないと思いますが、彼女ならきつと子どもたちを育ててくれるはず。これまで続けることができたのは、私たち指導者を支えてくれた子どもたちの保護者や教え子の協力、そして何よりも子どもたちの頑張りのおかげ。これも

白石の新体操の母 日下イサヲさん

平成7年白石市体操協会設立時から副会長、平成17年からは会長を務める。平成8年から新体操教室を開催し、多くの生徒を指導。全国大会出場に導き、白石市の新体操競技の普及・発展に果たされた功績は大きい。平成9年から(財)白石市文化体育振興財団の評議員・理事および白石市表彰選考委員を務め、新体操のみならず、当市の発展に尽力されている。

白石に来てからのたくさんの出会いや支えが力に 子どもたちの笑顔と一生懸命に練習する姿が原動力

小学生から新体操を始め、「踊ることの楽しさ」「手具を使った演技を覚えること、の楽しさ」を知りました。高校の時にこの魅力あるスポーツを伝えていきたいと考えようになり、大学卒業後、指導者の道を歩み始めました。白石に来て早10年。日下さんには、家で食事をこ馳走になったり、一緒に温泉に行ったりする中で、新体操や白石のことなどを教わりました。白石に来てからのたくさんの人たちとの出会い、みんなの支えがあった、これまでやっていくことができました。私の一番の原動力は「子どもたちの笑顔」と「一生懸命に練習する姿」。新体操を通してスポーツの楽しさ、人と人とのふれあいの大切さを感じてもらえるよう自分自身も学んでいきたいと思っています。

キューブ新体操教室監督 柴田佐和子さん

群馬県生まれ。小学4年生から新体操を始める。東京女子体育大学卒。千葉県船橋市立船橋高等学校新体操部の監督を4年務め、白石市へ。平成14年からキューブ新体操教室男女の監督を務める。